2022年1月9日発行
KyotangoCity Society of Commerce&Industry
京丹後市 商工会だより
Vol.170
2022 1月号
協働・共感で響きあう　まちづくりをLEADする　京丹後市商工会
〔京丹後市商工会〕〒627-0012　京都府京丹後市峰山町杉谷836-1
■TEL:0772-62-0342　■FAX:0772-62-3553　■URL:https://kyotango.kyoto-fsci.or.jp
●大宮支所/TEL:68-0038　●網野支所/TEL:72-1863　●丹後支所/TEL:75-2222　●弥栄支所/TEL:65-3137（火・金のみ）　●久美浜支所/TEL:82-0155

年頭挨拶

新年のご挨拶

京丹後市商工会長　行待佳平

あけましておめでとうございます。会員の皆様には、ご家族お揃いでお健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年中は、商工会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も相変わりませず、宜しくご支援くださいますようお願い申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症において第3波、第4波と続き、デルタ株のまん延に伴う第5波の影響で8月20日に4度目となる緊急事態宣言が京都府に発出され、9月30日にようやく解除となりました。時短・休業要請に関連し飲食業をはじめ、また新興国での感染拡大によるサプライチェーンを通じた部品・原材料等の供給制約や半導体不足なども重なり、製造・建設業などあらゆる業種において影響があり、企業経営にとって厳しい一年となりました。

このような中、当会は、7月に丹後地方商工団体連絡協議会（北部の3商工会・商工会議所で構成）で京都府知事へ中小企業・小規模事業者への事業継続支援等について要望を行うとともに、新型コロナウイルス感染症関連施策では、思い切った事業再構築に意欲を有する中小企業等の挑戦を支援する「事業再構築補助金」、ポストコロナを踏まえた新たなビジネスやサービス、生産プロセスの導入等の取り組みを支援する「小規模事業者持続化補助金（低感染リスク型ビジネス枠）」をはじめ、京丹後市による事業継続にかかる各種給付金、国による一時支援金や月次支援金などの申請サポートや事業計画の策定を支援して参りました。

また、これまで、創業準備者の多くが創業計画の見直しや延期を余儀なくされていましたが、コロナ禍が長期化の様相を見せる中で、現状をビジネスチャンスと捉えた創業相談や、「コロナ移住」への関心の高まりから移住・Uターン予定者の創業相談が増加いたしました。これら相談に真摯に向き合い、一人でも多くの方が当地で創業を実現していただけるよう創業支援に注力した1年でもありました。

なお、コロナ禍で回復しきらない売上を如何に回復していくかといった課題を抱える方も多く、このニューノーマル時代における広報戦略の一つであるプレスリリースによる販売促進活動を提案し、賛同いただける事業者の皆さまを対象に経営発達支援計画の「新たな需要の開拓に寄与する事業」として、「商品・新サービス等合同記者発表会」を開催し、新たな販売促進活動を実践していただきました。また、地域資源を活用した商工会独自のブランディング展開として「丹後ちりめんロール®」の商標登録を行い市内事業者へ無償でライセンスすることで、ロールケーキの商品開発を促し、市内6店舗で丹後ちりめんの反物に似たオリジナルロールケーキの販売を開始していただきました。

これからの時代を勝ち抜くために

経済・社会が低迷する中、原油価格・原材料価格の高騰や、新たな変異株「オミクロン株」の出現は、様々な業種へ影響が出始めており、様々な局面において、これまでの活動スタイルが改めて問われています。

また、コロナ禍で売り上げが減少した企業に対して、政府系金融機関や民間金融機関によって行われた実質無利子・無担保で融資する「ゼロゼロ融資」は、元本の返済が始まる企業も徐々に出始めてくることから、返済に向けた収益力の回復が課題となるため、金融機関などとの更なる連携も重要であると考えております。

これからの時代は、柔軟に対応できる組織を作り経営を行う必要があります。そのためには、将来を予測することが困難ながらも、一貫した対応を取るために「ビジョンを明確にする」、どのような変化が起こっているのか把握するために「情報収集・学習を常にこころがける」ことが非常に重要です。

今後も当会は、関係各所と連携を取りながら事業継続のための経営基盤安定支援、コロナ禍への適応支援、経営体質の改善・新たなチャレンジへの支援などを行ってまいります。

本年も、役職員一同チーム一丸となり、地域の総合経済団体としてのその役割を深く認識し、将来に希望を持てる活気に満ちた地域経済とまちづくりの実現に尽力してまいります。

結びにあたり、会員の皆様にとってこの一年が幸多き年でありますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

府民の皆さまと力を合わせ京都の夢を実現

京都府知事　西脇隆俊

あけましておめでとうございます。府民の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の新型コロナウイルス第5波では、これまでに経験したことのない感染拡大を引き起こしました。この波を乗り越えられたのも、すべての府民の皆さま・事業者の皆さま、そして医療従事者をはじめ関係の皆さまのご協力の賜であり、心から感謝と敬意を表する次第であります。

人類が対峙する新型コロナウイルスは、生命や健康を脅かすだけでなく、世界経済をも混乱に陥れました。われわれは感染予防対策を日常生活に取り入れ、ワクチン接種を進め、医療提供体制を整えるなど、この困難を乗り越えるため、力を合わせ立ち向かっています。

「あなたが一人で見る夢はただの夢だ。みんなで見る夢は現実になる～A dream you dream alone is only a dream. A dream you dream together is reality～」これは、ヨーコ・オノとジョン・レノンが伝えるメッセージです。

われわれは困難を乗り越えた先に見える「夢」を現実のものとするため、力強く歩まなければなりません。夢の形は人それぞれですが、誰もが夢を抱き、夢に向かってチャレンジすることができる社会を築きたい。そのためには「府民と共に京都夢実現プラン（京都府総合計画）」をさらに前進させる必要があります。

こうした中、これからの京都発展の原動力となる文化庁の京都移転、新名神高速道路の開通、大阪・関西万博の開催が続きます。時機を逸することなく、京都が持つ魅力の源泉である文化の価値をしっかりと国内外に発信することはもちろん、基盤整備を活かした産業戦略と一体となった雇用戦略の展開など、京都の夢を実現するため、着実に取り組んでまいります。

今年は寅年です。「寅」は動くを意味し、芽の出たものが成長していく年です。明治以来初の中央省庁の移転となる、文化庁の京都移転という新しい幕開けに向け、この一年がよりいっそう弾みとなりますよう、皆さまと一緒に夢に向かって邁進してまいります。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

「ありがとう」の心でつくる笑顔あふれるまちづくり！

京丹後市長　中山泰

あけましておめでとうございます。市民の皆様には令和4年の新春を健やかにお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

昨年は、一昨年に引き続き、コロナから市民の健康と生活・事業を全力で守り抜く取り組みに市を挙げて尽くした一年でした。そしてまた、総合計画のもと「京丹後にあふれる可能性の実現」に向け各分野で取り組みを前進させた年でもあります。逐一は掲げませんが、ふるさと納税推進、国のSDGs未来都市の選定、小規模公共事業や地域のコミュニティづくり予算の大幅拡充、全国最大級の奨学金支援制度、教育子育て支援推進、障害者福祉・生活福祉・百才活力社会の推進、医療基盤の拡充、産業面では京丹後産食材ブランド創造の各種事業、新シルク創造館やテレワーク等センター、松本重太郎ギャラリーの新設、ANAとの観光等連携、若者育成支援のICT地方創生事業やデジタル化戦略策定などのほか、山陰近畿自動車道全線実現に向けた取り組み、さらには、庁舎増築棟や網野庁舎跡地整備を含め本市の都市拠点、地域拠点の整備を進め、魅力的で持続可能なまちのグランドデザインを検討・推進する事業もスタートしています。

一方、この間は、コロナで様々な行動・事業の制約を余儀なくされ「なにげない日常の有り難さ」を改めて感じさせられた一年でした。すなわち「なにげない日々でも普段気づかないだけで実は、大切な宝にあふれている！」ということです。本市と所縁がある日本電産の永守会長がかつてご講演の中で「困難は、必ず解決策を一緒に連れてきている。困難の中にチャンスが既に入っている。私はそれゆえ〝困難さん〟と呼んでいる。」と言われました。困難も360度よく見れば必ずどこかに「一緒に連れてきた宝」が潜んでいる、と。何事も四方十方、宝だらけ、いわば「有が十」（ありがとう）です。このように向き合う姿勢が持てれば、「課題や困難は『宝』」も同然、といえます。

本市には、多彩な産業資源、誇れる歴史資源、豊かな自然資源、何より大切な、一人一人の住民相互の温かいきずなやネットワークなど、これからの時代に求められる宝の原石、魅力に満ちあふれています。一方でもちろん、まだまだ様々な課題や負担も他の自治体と同様にたくさんあります。多彩な宝の原石、魅力は更に磨き上げていく。同時に様々な課題や困難もこれに真摯、誠実に向き合い、宝を見出し、まちづくりの糧や特色を持ったエンジンに変えていく。とすれば、すべてが宝と宝の原石です。もちろん言うは易しで直線的には運びません。だけども、つまづいても立ち上がり、倒れても立ち上がり、こういった姿勢を大切にしていく。そして、子どもたちや若者、女性やシニア、あらゆる世代の市民みんなが夢や希望を持ち、安心感とワクワク感にあふれ、お互いに支え合い、高め合い、笑顔がいっぱい輝くまちへ、懐かしくて豊かな未来づくりへ、市民の皆さんと力を合わせ、そんなまちづくりを進めていきたいと心から念じています。

本年が市民の皆さんにとってますます喜びの多い豊かな年でありますよう心からお祈り申し上げまして、新春のごあいさつとさせていただきます。